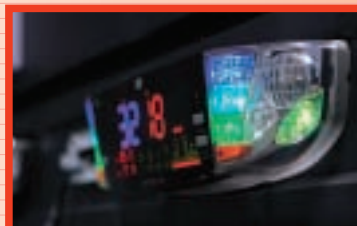


To Our Shareholders ～株主の皆さまへ …P1

ホール・メーカー・ファンを信頼で結び、  
共に利益と満足を得るビジネスの構築を  
目指していきます。

ダイコク電機最前線 **Fade in** …P3

- DK-SISセミナー全国で開催
- 名証IRエキスポ2006にブース出展
- 「DK-SIS白書2005」発刊のお知らせ
- SKY Perfec TV!の番組  
「パチ・スロ サイトセブンTV」が  
777chに変更
- セグメント別の状況 …P5





代表取締役社長 栢森雅勝

### ●当中間期の経営成績

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益が好調に推移する中、設備投資の増加や雇用情勢の改善により個人消費も増加し、着実な景気回復が続いております。

当社グループが携わるパチンコ業界におきましては、パチンコ遊技機の多様化が進み、遊技機等の活用によるパチンコホールの二極化がさらに進んでおります。また、設置有効期限が切れたパチンコ、パチスロ遊技機の撤去に伴い、パチンコホールでは集客・収益戦略の再構築が迫られております。

このような状況のもと、パチンコホールの周辺機器に対する設備投資環境は厳しくなっておりますが、情報システム事業におきましては、多様化した遊技機を有効活用するための経営ツールであるホールコンピューティングシステム「C」が引き続き評価され、また、ファン集客のためのツールである情報公開製品も、店舗競争での差別化をはかる設備としてパチンコホールへの納入が順調に推移しております。

制御システム事業では前年同期比で開発機種数が増加し、主力のユニット等の製品販売では大幅な売上増となりましたが、商

## ホール・メーカー・ファンを信頼で 結び、 共に利益と満足を得るビジネスの 構築を目指していきます。

品販売は厳しいものがありました。

この結果当中間連結会計期間の業績は、売上高245億62百万円（前年同期比7.3%増）、営業利益27億86百万円（同12.1%減）、経常利益29億86百万円（同10.6%減）、中間純利益16億17百万円（同4.0%減）となりました。

### ●財政状態

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1億51百万円減少の513億79百万円となり、その内訳として流動資産が303億66百万円、固定資産が210億12百万円です。また、負債は254億84百万円、純資産は258億95百万円であり自己資本比率は50.4%（前連結会計年度末比0.8%増）となりました。

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ10億95百万円減少の95億16百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動により得られた資金は、前中間連結会計期間と比べ7億83百万円減少の2億16百万円となりました。その主な要因は当中間連結会計期間において売上債権、たな卸資産の増加及び仕入債務の減少の額が大きかったことによります。

投資活動の結果使用した資金は、前中間連結会計期間と比べ11億38百万円減少の1億62百万円となりました。その主な要因は当中間連結会計期間においては定期預金の積立による支出はなく、その反面、定期の解約による収入があったことによります。

財務活動の結果支出した資金は、前中間連結会計期間と比べ1億89百万円増加の11億48百万円となりました。その主な要因は当中間連結会計期間において社債の償還及び配当金の支払いが多かったことによります。

### ●通期の見通し

わが国経済は、所得の緩やかな増加により個人消費は堅調に推移し、着実な景気回復が続くものと思われま。

パチンコ業界は、設置有効期限が切れた遊技機撤去が続くことにより、パチンコホールにおいて集客・収益戦略の再構築が迫られております。

このような環境下、情報システム事業におきましては、DK-S ISセミナー等による新しいゲーム性を持つ遊技機の活用提案や情報公開製品を中心とした集客戦略の提案などを行い、パチンコホールの店舗運営をさらに支援することにより、通期売上高を297億円（前期比1.8%増）と見込んでおります。

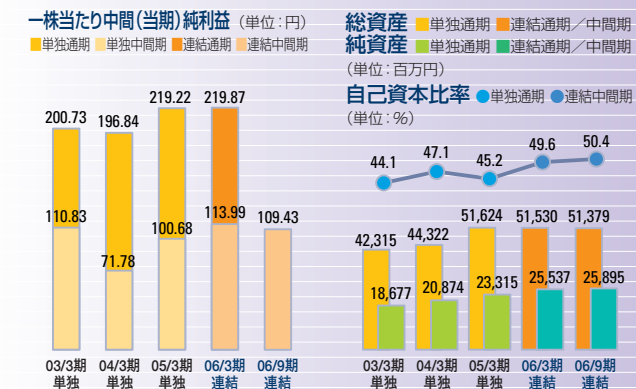
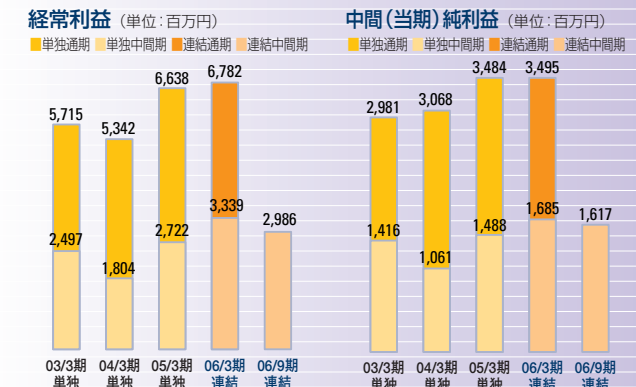
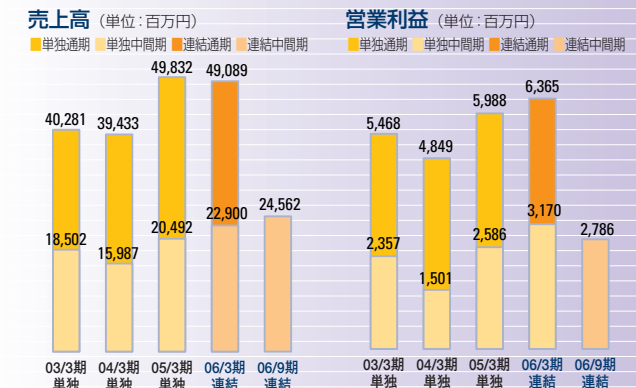
一方、制御システム事業におきましては、上期における主力機種種の計画未達等により、通期の売上高は期初計画より20億円減少の190億円（同4.6%減）の見込みとなりました。また、アミューズメントコンテンツ事業も発売したゲームの販売本数未達等により、通期の売上高は期初計画より7億円減少の26億円の見込みとなりました。

この結果、通期の連結売上高は513億円（同4.5%増）、経常利益は57億円（同16.0%減）、当期純利益は30億円（同14.2%減）の見込みとなりました。

#### 通期の見通しに関する注意事項

本冊子に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。したがって、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おください。

### 主要財務データ……………Key Financial Data



## DK-SISセミナー 全国で開催

「これまでの常識は通用しない!  
これが遊技機選択の新常識」  
「DK-SISが導く新遊技機活用術」



6月12日(月)の東京会場を皮切りに7月11日(火)の札幌会場まで、全国12会場でパチンコホール経営者を対象とした2部構成のセミナーを開催しました。

今回のセミナーでは、パチンコ業界の動向を考察した上で、今後の遊技機管理の重要性や、進化し続けるパチンコ遊技機をいかに活用するかについて説明すると共に、業界唯一の戦略情報システムである当社「DK-SIS」がホール経営にとっていかに有益な営業戦略ツールなのかを訴求しております。

当社は今後も業界から常に注目される新しい提案を行い、ブランド力がさらに向上するように注力して参ります。



## 「DK-SIS白書2005」 発刊のお知らせ

このたび当社は2004年の初版から数えて3冊目となる「DK-SIS白書2005」を発刊しました。変化し続けているパチンコ業界の動向について、DK-SIS加盟パチンコホールから送られてくる日々の情報を収集・分析を行い、2005年1月から12月までの膨大なデータの動向をまとめたものがこの「DK-SIS白書2005」です。

本書によると2005年の業界動向は、前年に引き続き好調なパチスロ遊技機の実績に支えられていたことが分かります。今後目前に迫っている5号機時代を踏まえ、このパチスロ依存体質をどう改善・変化させていくかがホール経営最大の課題となるのは明白です。

パチンコホール経営企業の皆さまが、これからもDK-SISを引き続きご活用いただき、本書が企業活動の一助となれば幸いに思います。



## SKY Perfec TV!の番組 「パチ・スロ サイトセブンTV」が 777chに変更

SKY Perfec TV!で絶賛放映中の「パチ・スロ サイトセブンTV」が、2006年10月1日より754chから777chに変更いたしました。



チャンネルを『777』に変更することにより、パチンコ・パチスロファンに親しみのある数字であると共に、当社が運営する「データロボ サイトセブン」(SITE777)と連携したサービスであることをより強くイメージ付けられると考えております。

SKY Perfec TV!と連携したサービスのひとつとして、「データロボ サイトセブン」PCサイトでは会員専用メニューで番組配信サービスを行っており、ファンの方々楽しんでいただいております。

今後、より多くのファンの方を獲得できるよう頑張っていきます。

パチ・スロ サイトセブンTV  
SITE SEVEN TV



## 名証IRエキスポ2006に ブース出展



7月14日(金)・15日(土)、名古屋中小企業振興会館(吹上ホール)で開催されました「名証IRエキスポ2006」にブース出展しました。今回で3回目の出展となるこのイベントは年々盛況になっており、出展企業数も昨年を上回る131社となりました。

来場者も昨今の投資ブームを反映して増加しており、証券アナリストほか証券関係者向け説明会の14日(金)が約800名、個人投資家向けとなる15日(土)には、早朝から会場前に長蛇の列ができ、入場時刻を早めねばならないなど、4,200名を越える来場者があり、2日間で合計5,000名の大盛況イベントになりました。

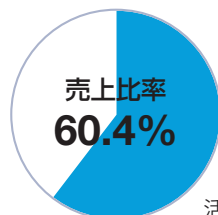
人気ブースのひとつでもある当社には、ブース前で行うミニ説明会にも大勢の個人投資家がお見えになり、熱心に説明に耳を傾け、矢継ぎ早に質問されるなど、盛況のうちに閉幕いたしました。

来場者アンケートの集計結果を見ますと、「当社のことを知っているか」の質問に対して、「業績や株価の概要を知っている」と「ホールコンピュータのトップ企業だと知っている」を合わせた割合が72.5%あり、一昨年・昨年の集計結果と比較しても、毎年2~3%ですが着実に認知度が向上してきています。

今後も継続的なIR活動を行い、当社の知名度・認知度向上に努力していきます。



## 情報システム事業



当中間連結会計期間において、顧客であるパチンコホールは、設置有効期限の切れた遊技機撤去のため、順次、遊技機の入替えを行いました。業績に対し貢献度の高いパチスロ遊技機の撤去もなされたことにより、業績の維持、向上のため、試行錯誤が続いている状況です。その中、パチンコホールは、遊技機を有効活用するために設備投資を行い、稼動アップを目指しました。

このような市場環境の中、当事業は、パチンコファンの集客を増やすため、高機能ランプIL-90C II及びメフィードを提案し、成果をあげることができました。さらに、新店や改装店舗に対しては、「DK-SIS」との融合が進みパチンコホールより高い評価を得ている「C」が、ホール経営ツールの核として数多く導入され、情報公開製品のプレジャービジョンも順調に推移いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は148億30百万円(前年同期比8.9%増)、営業利益33億24百万円(同10.0%増)となりました。



## プレジャービジョン PV-55(R) II

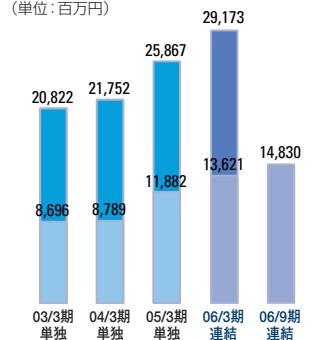
ファンが求める情報とファンに伝えたい情報を効果的に結びつけた新しい情報公開ツール。サンド型のタッチパネルLCDで、過去のデータから本日のデータまで出玉推移グラフや大当り発生履歴、ベスト台データなどグレードアップした多彩なデータが見られます。

パチンコホール向け  
会員制情報提供サービス「DK-SIS」

当社ホールコンピュータとインターネットを駆使し、SIS会員パチンコホールとダイコク電機との間に高度なネットワークを構築し、日々の営業データを収集し、分析、加工後、付加価値の高い情報を提供する顧客支援システムです。

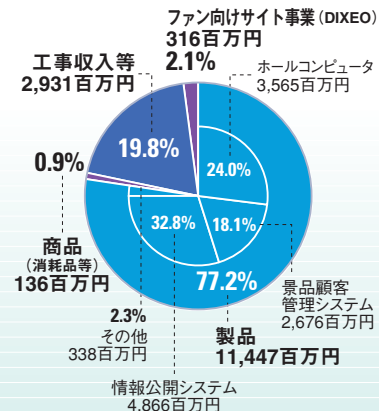
## ●情報システム事業売上高

■単独通期 ■単独中間期 ■連結通期 ■連結中間期  
(単位:百万円)



## ●情報システム事業売上高構成比

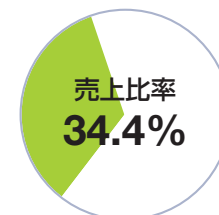
(百万円未満は切捨て)



## ●情報公開システム製品のラインナップ



## 制御システム事業



当中間連結会計期間における遊技機市場は、パチンコ遊技機において、多様なゲーム性を持ったバリエーション豊かな機種が投入が続いております。また、パチスロ遊技機は、市場から高い評価を受けるような新基準機が登場していないこともあり一部のファン離れが起こりつつあります。

このような市場環境の中、当事業は、「DK-SIS」のデータ分析を基に、遊技機動向を掴み、ファンに受け入れられるゲーム性豊かな遊技機開発を行っております。また、元気株式会社等の開発力を活用し開発機種数が増加したことにより、製品販売は56億65百万円(前年同期比37.3%増)となりました。一方、商品販売は市場競争の激化に



## 表示ユニット

パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。



## 制御ユニット

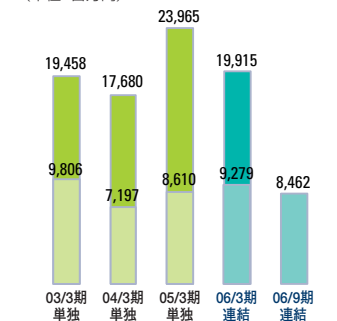
基本動作をつかさどるハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。

より、液晶パネルの販売が減少したため27億96百万円(同45.7%減)となりました。上記により、製品販売と商品販売の売上構成比率が変化し、当事業部門の売上総利益率は改善しました。

以上の結果、当事業の売上高は84億62百万円(同8.8%減)、営業利益9億46百万円(同23.4%減)となりました。

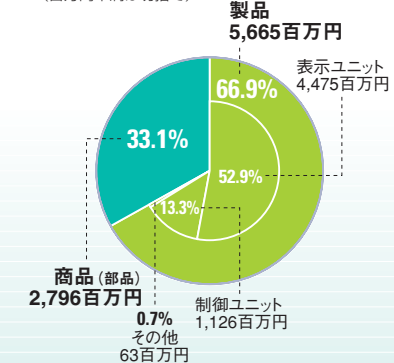
## ●制御システム事業売上高

■単独通期 ■単独中間期 ■連結通期 ■連結中間期  
(単位:百万円)

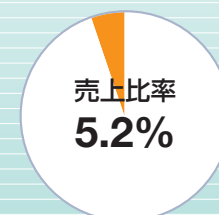


## ●制御システム事業売上高構成比

(百万円未満は切捨て)



## アミューズメントコンテンツ事業



アミューズメントコンテンツ事業は、ゲーム事業を行っている元気株式会社と元気モバイル株式会社を子会社化したことにより、今期より当社グループの新たな事業となりました。

当中間連結会計期間におけるゲーム市場は、現在のゲーム機が世代交代時期を迎え厳しい状態が続いております。このような状況のもと、当事業の売上高は12億70百万円、営業損失2億61百万円となりました。

中間連結貸借対照表 (要旨)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2006年9月30日現在	2005年9月30日現在	2006年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	30,366	27,418	30,186
固定資産	21,012	17,593	21,344
有形固定資産	7,604	7,771	7,702
無形固定資産	3,897	1,614	3,980
投資その他の資産	9,510	8,207	9,662
資産合計	51,379	45,011	51,530
<b>負債の部</b>			
流動負債	24,926	17,723	25,179
固定負債	557	3,416	813
負債合計	25,484	21,140	25,993
<b>資本の部</b>			
資本金	—	674	674
資本剰余金	—	680	680
利益剰余金	—	22,509	24,172
その他有価証券評価差額金	—	8	12
自己株式	—	△0	△0
資本合計	—	23,871	25,537
負債・資本合計	—	45,011	51,530
<b>純資産の部</b>			
株主資本	25,863	—	—
資本金	674	—	—
資本剰余金	680	—	—
利益剰余金	24,509	—	—
自己株式	△0	—	—
評価・換算差額等	8	—	—
少数株主持分	23	—	—
純資産合計	25,895	—	—
負債・純資産合計	51,379	—	—

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

中間連結損益計算書 (要旨)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
売上高	24,562	22,900	49,089
売上原価	15,836	14,966	32,110
売上総利益	8,726	7,934	16,978
販売費及び一般管理費	5,940	4,763	10,612
営業利益	2,786	3,170	6,365
営業外収益	271	245	556
営業外費用	71	75	138
経常利益	2,986	3,339	6,782
特別利益	10	16	16
特別損失	48	569	627
税金等調整前中間(当期)純利益	2,948	2,786	6,171
法人税、住民税及び事業税	1,556	1,326	2,896
法人税等調整額	△209	△225	△220
少数株主損失	16	—	—
中間(当期)純利益	1,617	1,685	3,495

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	216	1,000	4,046
投資活動によるキャッシュ・フロー	△162	△1,301	△4,644
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,148	△959	△2,283
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0	△0
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△1,095	△1,260	△2,881
現金及び現金同等物の期首残高	10,611	13,493	13,493
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	9,516	12,233	10,611

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

中間連結株主資本等変動計算書 (要旨)

当中間期 2006年4月1日から2006年9月30日まで	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2006年3月31日残高	674	680	24,172	△0	25,525	12	—	25,537
当中間連結会計期間中の変動額	—	—	△1,034	—	△1,034	—	—	△1,034
利益処分による剰余金の配当	—	—	△245	—	△245	—	—	△245
利益処分による役員賞与	—	—	1,617	—	1,617	—	—	1,617
中間純利益	—	—	—	—	—	△3	23	20
株主資本以外の項目の当中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△3	23	357
当中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	337	—	337	△3	23	357
2006年9月30日残高	674	680	24,509	△0	25,863	8	23	25,895

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

中間貸借対照表 (要旨)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2006年9月30日現在	2005年9月30日現在	2006年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	28,158	27,219	28,404
固定資産	20,955	17,688	20,409
有形固定資産	7,498	7,753	7,621
無形固定資産	1,602	1,602	1,564
投資その他の資産	11,854	8,332	11,224
資産合計	49,113	44,907	48,813
<b>負債の部</b>			
流動負債	22,725	17,667	23,061
固定負債	327	3,419	336
負債合計	23,052	21,086	23,397
<b>資本の部</b>			
資本金	—	674	674
資本剰余金	—	680	680
利益剰余金	—	22,459	24,050
その他有価証券評価差額金	—	8	12
自己株式	—	△0	△0
資本合計	—	23,821	25,416
負債・資本合計	—	44,907	48,813
<b>純資産の部</b>			
株主資本	26,051	—	—
資本金	674	—	—
資本剰余金	680	—	—
利益剰余金	24,698	—	—
自己株式	△0	—	—
評価・換算差額等	8	—	—
純資産合計	26,060	—	—
負債・純資産合計	49,113	—	—

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

中間株主資本等変動計算書 (要旨)

当中間期 2006年4月1日から2006年9月30日まで	株主資本							評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計		
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金	利益剰余金 その他利益剰余金			自己株式			株主資本合計	
				別途積立金	特別償却準備金	繰越利益剰余金					
2006年3月31日残高	674	680	30	19,000	18	5,002	24,050	△0	25,404	12	25,416
当中間会計期間中の変動額	—	—	—	—	△7	7	—	—	—	—	—
利益処分による特別償却準備金の取崩	—	—	—	—	△3	3	—	—	—	—	—
当中間期の特別償却準備金の取崩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
利益処分による別途積立金の積立	—	—	—	1,000	—	△1,000	—	—	—	—	—
利益処分による剰余金の配当	—	—	—	—	—	△1,034	△1,034	—	△1,034	—	△1,034
利益処分による役員賞与	—	—	—	—	—	△221	△221	—	△221	—	△221
中間純利益	—	—	—	—	—	1,904	1,904	—	1,904	—	1,904
株主資本以外の項目の当中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△3	△3
当中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	1,000	△11	△340	647	—	647	△3	644
2006年9月30日残高	674	680	30	20,000	6	4,662	24,698	△0	26,051	8	26,060

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

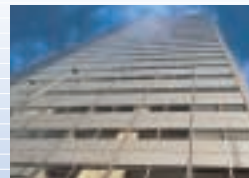
中間損益計算書 (要旨)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2005年4月1日から 2005年9月30日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
売上高	22,977	22,624	48,452
売上原価	14,752	14,957	32,079
売上総利益	8,225	7,667	16,372
販売費及び一般管理費	5,220	4,621	10,282
営業利益	3,005	3,045	6,089
営業外収益	293	270	603
営業外費用	55	75	138
経常利益	3,242	3,239	6,554
特別利益	8	30	30
特別損失	16	569	627
税引前中間(当期)純利益	3,234	2,700	5,957
法人税、住民税及び事業税	1,525	1,280	2,782
法人税等調整額	△196	△215	△198
中間(当期)純利益	1,904	1,635	3,374
前期繰越利益	—	1,776	1,776
中間配当額	—	—	147
中間(当期)未処分利益	—	3,411	5,002

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

(2006年9月30日現在)

●商号	ダイコク電機株式会社 DAIKOKU DENKI CO., LTD.
●創業	1964年12月
●設立	1973年 7月
●資本金	6億7千4百万円(発行済株式総数14,783,900株)
●本社	名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階
●従業員数	(単体)431名 (連結)667名
●事業内容	パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売 パチンコ・パチスロ遊技機用ユニットの開発・製造・販売
●役員	取締役会長 小山 晴 久 代表取締役社長 栢 森 雅 勝 代表取締役副社長 栢 森 秀 行 代表取締役専務 栢 森 健 健 常務取締役 岩 根 節 雄 取締役 伊 藤 茂 年 取締役 平 原 正 義 取締役 山 下 陽 陽 取締役 根 本 弘 弘 取締役 堀 田 昌 郎 取締役 國 保 徳 丸 常勤監査役 山 崎 健 二 郎 常勤監査役 伊 東 幹 夫 監査役 田 中 正 雄 監査役 敷 田 稔 稔 監査役 村 橋 泰 志
(注) 1.	取締役 堀田昌郎氏、國保徳丸氏は社外取締役であります。
2.	監査役 田中正雄氏、敷田稔氏、村橋泰志氏は社外監査役であります。



本社



本部事業所

●事業所一覧

本 社	〒450-8640	名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階 TEL(052)581-7111(代表)
本部事業所	〒480-0395	春日井市坂下町1丁目875 TEL(0568)88-7111
高蔵寺事業所	〒487-0014	春日井市気噴町一丁目2番地 TEL(0568)51-7111
春日井事業所	〒480-0304	春日井市神屋町1番26 TEL(0568)88-7771
表道デザインスタジオ	〒107-0061	東京都港区北青山三丁目3番11号 ルネ青山ビル

●拠点一覧

北日本支店	〒980-0014	仙台市青葉区本町二丁目2番3号 鹿島広業ビル
・札幌営業所	〒001-0011	札幌市北区北十一条西四丁目1番地44 ベルエアプラザ
・盛岡出張所	〒020-0045	盛岡市盛岡駅西通二丁目9番1号 マリオス
関東支店	〒110-0005	東京都台東区上野七丁目2番10号 上野駅前第一生命ビル
・茨城営業所	〒305-0032	つくば市竹園二丁目2番地4 第2・ISSEビル
・北関東営業所	〒330-6022	さいたま市中央区新都心11番地2 明治安田生命さいたま新都心L.A.タワー
・新潟出張所	〒950-0925	新潟市弁天橋通1丁目2番39号 VMビルディング
中部支店	〒480-0304	春日井市神屋町1番26
・金沢出張所	〒920-0027	金沢市駅西新町3丁目9番26号
・松本出張所	〒390-0852	松本市大字島立399番地1 滴水ビル
西日本支店	〒532-0003	大阪市淀川区宮原四丁目1番14号 住友生命新大阪北ビル
・岡山営業所	〒700-0927	岡山市西古松一丁目1番26号 オム第Ⅱビル
・高松出張所	〒761-8071	高松市伏石町795番地1 丸忠Ⅲビル
九州支店	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号 ヤマエ博多駅南ビル
・広島営業所	〒731-0138	広島市安佐南区祇園3丁目45番11号
・宮崎出張所	〒880-0801	宮崎市老松一丁目3番3号 松屋ビル

●関係会社

**連結子会社**  
DIXEO株式会社、元気株式会社、元気モバイル株式会社、DO株式会社

**関連会社**  
株式会社ラビス

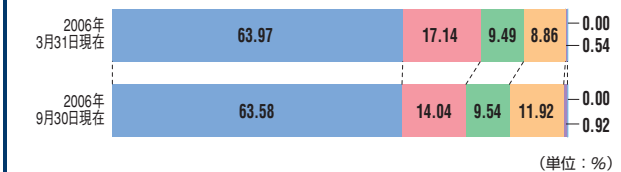
(2006年9月30日現在)

●株式状況

発行可能株式総数	66,747,000株
発行済株式総数	14,783,900株
株主数	3,012名

●所有者別株式分布状況

	2006年9月30日現在		2006年3月31日現在	
■個人・その他	9,399,387株	2,790名	9,457,762株	2,520名
■金融機関	2,074,800株	34名	2,533,900株	38名
■その他国内法人	1,410,100株	71名	1,402,300株	62名
■外国人	1,762,880株	88名	1,309,400株	62名
■証券会社	136,593株	28名	80,398株	20名
■自己名義株式	140株	1名	140株	1名
合計	14,783,900株	3,012名	14,783,900株	2,703名



●持株数別株式分布状況

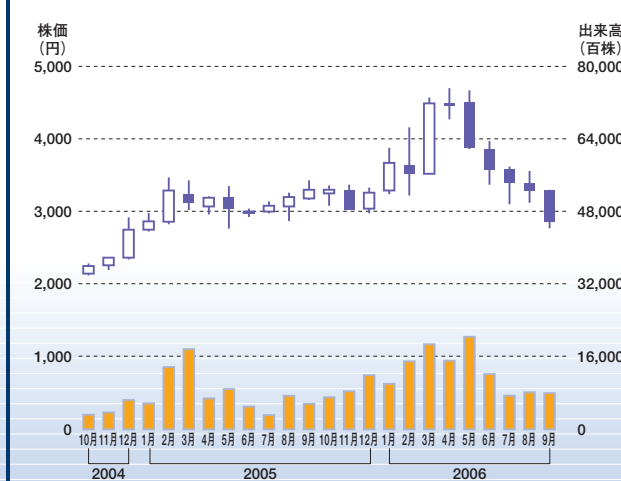
	2006年9月30日現在		2006年3月31日現在	
1単元未満	210株	8名	210株	7名
1単元以上5単元未満	322,100株	2,002名	271,000株	1,757名
5単元以上10単元未満	182,900株	310名	154,300株	265名
10単元以上50単元未満	879,520株	542名	869,650株	529名
50単元以上100単元未満	307,780株	45名	327,650株	50名
100単元以上500単元未満	1,629,094株	81名	1,499,450株	71名
500単元以上1,000単元未満	492,556株	7名	354,800株	5名
1,000単元以上5,000単元未満	1,805,000株	8名	1,564,700株	9名
5,000単元以上	9,164,600株	8名	9,742,000株	9名
合計	14,783,760株	3,011名	14,783,760株	2,702名

(注) 1. 2006年9月30日現在の持株数別株式分布状況には、自己名義株式1名140株を含んでおりません。  
2. 2006年3月31日現在の持株数別株式分布状況には、自己名義株式1名140株を含んでおりません。

●大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
栢森 雅勝	1,885,650	12.75
栢森 秀行	1,772,700	11.99
栢森 健	1,771,100	11.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	909,500	6.15
財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森 新治	737,150	4.98
栢森 隆	712,500	4.81
栢森 美智子	626,000	4.23
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	446,900	3.02
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505019	365,900	2.47
ダイコク電機従業員持株会	291,900	1.97
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	169,000	1.14
株式会社みずほ銀行	150,000	1.01
ザチエスマルツバンクエヌイーロボンエスエル私コバアカウト	142,700	0.96
ドリーム	128,600	0.86
株式会社三菱東京UFJ銀行	110,000	0.74
メロンバンクフリーティークライアントオムニバス	97,600	0.66
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金特金口)	84,800	0.57
XロバクエーアエージェンシーイッツクライアントXロバクエーアエージェンシー	74,700	0.50
チエスマルツバンクジーティーエスクライアントアカウトエスクロウ	60,656	0.41

●株価及び出来高の推移



## 株主メモ

- **事業年度** 4月1日から翌年3月31日
  - **定時株主総会** 6月下旬
  - **基準日**

定時株主総会	3月31日
期末配当	3月31日
中間配当	9月30日

その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
  - **株主名簿管理人** 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
  - **同事務取扱場所** 〒460-8685  
名古屋市中区栄三丁目15番33号  
中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部  
TEL. 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
  - **同取次所** 中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
  - **公告方法** 電子公告によります。ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 公告のホームページアドレス** <http://www.daikoku.co.jp/investor/kessan.html>

### 〈お知らせ〉

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

### IR情報メール配信サービスを開始

当社は、投資家の皆さまに対して電子メールによるIR情報配信サービスをスタートさせました。ご登録いただいた方々に当社ホームページ (<http://www.daikoku.co.jp>) に新しい情報が掲載されたことをお知らせします。

ご希望の株主さまは、当社ホームページにアクセスした後、「IRメール配信ご登録」ボタン、またはディア・ネットサービスホームページ (<http://www.dinet.jp/6430>) から、簡単にご登録 (無料) いただけます。



〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階

TEL (052) 581-7111 (代表)

ホームページ <http://www.daikoku.co.jp>